新規種解説資料

タカネイチヨウラン

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Dactylostalix uniflora (Finet) Suetsugu

今回評価	絶滅危惧IA類
環境省(2020)	指定なし
環境省(2014)	指定なし

適用基準	定量D

評価理由	過去に記録された3地点のうち、1地点で20個体未満のみが確認された。花期に目につくため、園芸採取が危惧される。
主な危険要因	園芸採取　踏み付け 園芸採取が最大の危険要因であると考えられる。また、撮影のために生育地周辺に立入り、非開花個体を踏みつぶしてしまうことも危惧される。
特記事項	2024年にイチヨウラン（絶滅危惧ＩB類）とは別種であることが判明し、上記の学名があてられた。現地調査を行った結果、群馬県ではイチヨウランに比べて極端に生育地点や個体数が少なく、まれな種であることが判明した。また、過去に園芸採取があった生育地もあると考えられる。

総産地数	3
現存	1
不明	2
絶滅	0

県内の分布状況	
利根	△
吾妻	○
中部	
西部	
東部	

マンシュウヤマサギソウ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue var. *cornu-bovis* (Nevski) Kitag.

今回評価	絶滅危惧IB類
環境省(2020)	指定なし
環境省(2014)	指定なし

適用基準	定量D

評価理由	9地点中5地点で生育が確認されたか、現存する可能性が高い。総個体数は150～200と見積もられる。園芸採取のほかニホンジカによる地表かく乱の影響が危惧される。
主な危険要因	園芸採取　動物食害（ニホンジカ） 本属の中では花が大型で目立つため、園芸採取が危惧される。ニホンジカによる直接的な食害は現在確認されていないが、地表の掘り返しなどによる裸地化の影響はある。
特記事項	群馬県では、従来ヤマサギソウやマイサギソウとされてきたものの一部である。それらよりも全体に大型で花も大きい。群馬県では湿原周辺や沢沿いの草地に生育する。地点による個体数や保護監視体制の差が激しく、現在ニホンジカの個体数密度が増加している地域に生育地点がまとまっている点も今後の懸念材料である。

総産地数	9
現存	5
不明	4
絶滅	0

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	
西部	
東部	